

48-6011 27

実用新案登録願（実用新案法第8条第1項規定による実用新案登録出願）

昭和54年2月21日

特許庁長官 熊谷 善二 殿

- 1 考案の名称 ^{ビヨウテフクロ} 美容手袋
- 2 原特許出願の表示 昭和48年特許願第60111号
- 3 考案者

住所 ^{タキグンササヤマチヨウタツマチ} 兵庫県多紀郡篠山町立町121

氏名 山内 昌（外1名）

- 4 実用新案登録出願人

郵便番号 540

住所 ^{ヒガシクイタヤマチ} 大阪府大阪市東区米屋町2丁目25番地

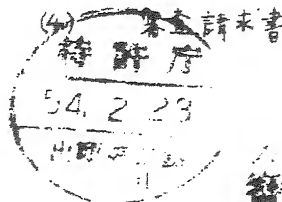
氏名 ジェクス株式会社

代表者 山内 昌

- 5 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通 (2) 図面 1通
- (3) 願書副本 1通 (4) 審査請求書 1通

54 022300



54-132427

明 細 書

1 考案の名称

美容手袋

2 実用新案登録請求の範囲

手袋を構成する上下シート支持体間にエモリエント作用を有する皮膚保護薬液を介在せしめ、該保護薬液が手の皮膚に直接、接触するように熱シール、縫製、貼着、圧着等により一部開放、手袋成形を行った美容手袋。

3 考案の詳細な説明

この考案は手の皮膚の荒れを防止し、皮膚組織をいつも正常に保つための美容手袋に関するものである。

近年、合成洗剤の発達普及によって、合成洗剤が人体に及ぼす影響が問題になっているが、その一つに合成洗剤を連続使用した場合、手の皮脂膜のとりすぎ現象が起りその結果皮膚乾燥を生じ手の荒れをひき起す。またこの手肌の荒れは外気による影響も大きく、特に低温度の空気にさらされた場合、水分の蒸散によっておこることは周知の

ところである。

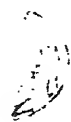
したがって本考案は、このような手の荒れを防止するために、皮脂を外部から供給保護し水分の蒸散をさける手袋、つまり手と接触する手袋内側に皮膚保護作用を有する薬剤を浸潤又は塗布した紙、不織布等製の美容手袋を提供し、夜間睡眠中などの装着によって、皮膚の荒れを回復することを目的とするものである。

以下、図面によって本考案の実施例を説明すると、第1図は本考案に関わる生産行程の実施例をあらわす。(A)・(B)はラミネート支持体、(1)は保護液、(1')はラミネート支持体(A)上に附着した保護液、(2)は薬剤を噴射するノズル、(3)はバケット、(4)はヒートシーラー、(5)はカッターをあらわす。第2図は第1図によって連続成形された美容手袋の連成状態及び一部切欠による手袋の構造をあらわす。(3')はバケット(3)の手形状貫孔、(4')はヒートシーラー(4)のシール・ブレードの形状、(5')はカッター(5)のカット・ブレードの形状を示す。第3図、(6a)は本考案実施例に関わる美容手袋の出来

上り製品、(6b)・(6c)は他の実施例製品、(6c)における(7)はミシン目をあらわす。第4図は保護液(1)の塗布行程に関する他例。

次に生産作動状態を説明するならば、たとえばポリエチレンと不織布又は紙のラミネート支持体(A)・(B)を互にポリエチレン側が対向するように図示のごとく一定距離を隔てて設置する。そして(A)・(B)間に皮膚をいつも正常に保護する薬剤を配合してなる保護液(1)を噴射するノズル(2)を複数本もうけ、そのノズル(2)に対応して下方ラミネート支持体(A)上に近接してバケット(3)を複数個とりつける。各々のバケット(3)は第2図、切欠図の(3')のような手形状貫孔をうち抜き、保護液(1)がノズル(2)より噴射した時、保護液(1)のラミネート支持体(A)上への附着個所を規制し限定するものである。したがって(3')は普通の人間の手より小さく、必ずしも手形状にこだわらなくても、たとえば楕円など適宜であってよい。

まず、ノズル(2)より保護液(1)がラミネート支持体(A)上に適量噴射され、次にそのラミネート支持



体(A)上の保護液附着個所をヒートシーラー(4)のところまで運ぶと同時に、ラミネート支持体(A)と対向するラミネート支持体(B)が上方に位置し、保護液(1)を挟んでラミネート支持体(A)・(B)をヒートシール(4)する。次いで、そのヒートシール(4)部をカッター(5)まで運び図示のごとくカット(5)し、手袋(6a)を成形する。したがってラミネート支持体(A)・(B)は横方向の間欠運動を行い、その運動と同期してヒートシーラー(4)、カッター(5)が作動する。この場合の手形状貫孔(3)、ヒートシール・ブレード(4)及びカッター・ブレード(5)の大小関係は第2図に示す関係で、シール・ブレード(4)の大きさを、普通手を充分包むことができる大きさとする。出来上り製品の形状は(6a)・(6b)等適宜であってよく、(6c)のごとくヒートシールの代りにミシン縫いしてもよい。また製産において保護液(1)を手袋成形後に第4図のごとく噴射塗布してもよい。

次に本考案に関わる保護液について述べる。皮膚が健康で美しい時は角質層における水分の含量

が20～25%とされ、一般に皮膚の荒れは皮膚の水分および脂肪のとりすぎによっておこり、この皮脂膜の水分および脂肪をたえず一定に保つことによって健康で美しい皮膚が保たれるのである。したがって本考案に関わる保護液としてはいわゆるハンドクリーム、エモリエントクリームおよびその成分原料、その他ワセリン、パラフィン、グリセリン、ポリエチレングリコール等の一種又は二種以上の配合によってなされてよく、実施例に関わる保護液にあつては液体状のものが好しい。

この手袋の使用については、夜間など手を使用しなくなつた時に着用すると、手袋内面に浸潤塗布された薬液の作用によつて睡眠中に水分と脂肪の経皮的浸透と吸収が期待され、それと同時に角質層に保護膜を形成することができ、皮膚に回復と美容を与え、美容手袋となるものである。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案に関わる美容手袋の生産行程をあらわす実施例、第2図は美容手袋の構造および連成状態をあらわす。第3図は本考案美容手袋の

実施例、第4図は他の生産実施例、(A)・(B)ラミネート支持体、(1)・(1)保護液、(2)ノズル、(3)パケット、(4)ヒートシーラー、(5)カッター。

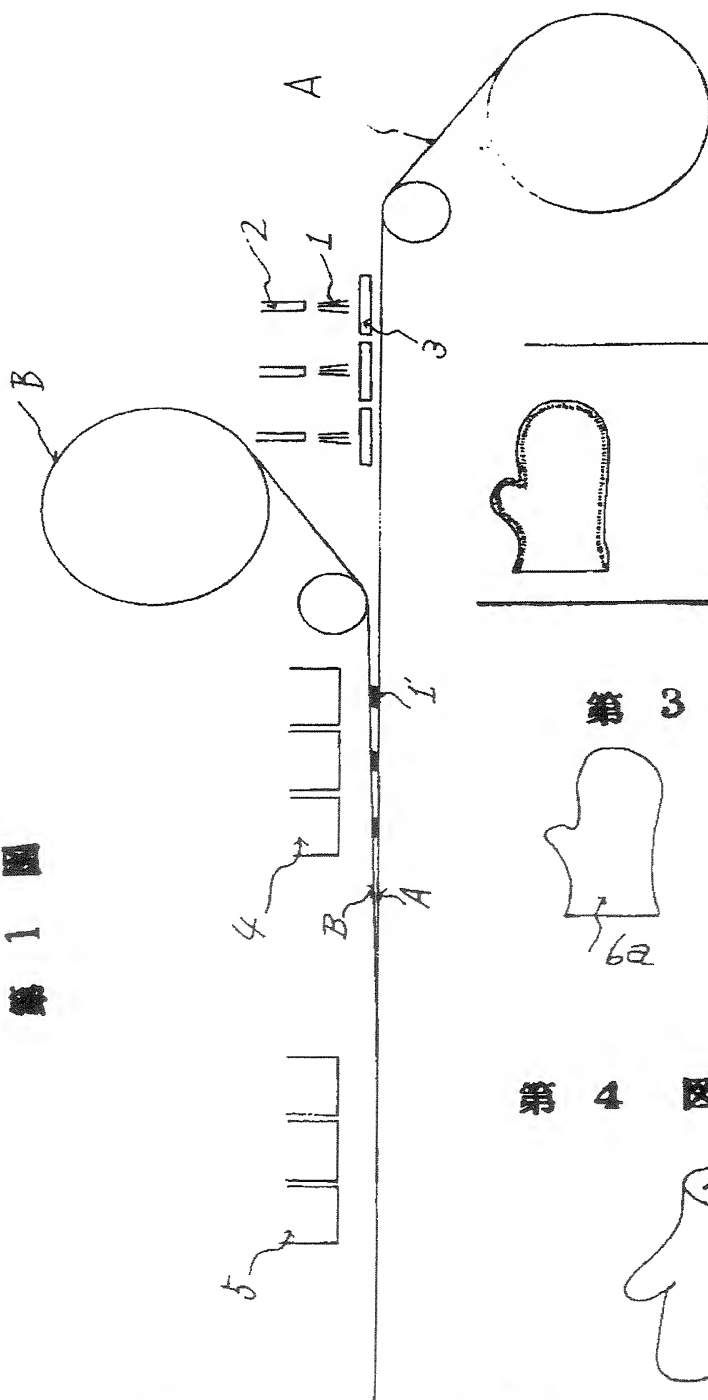
実用新案登録出願人

ジエクス株式会社

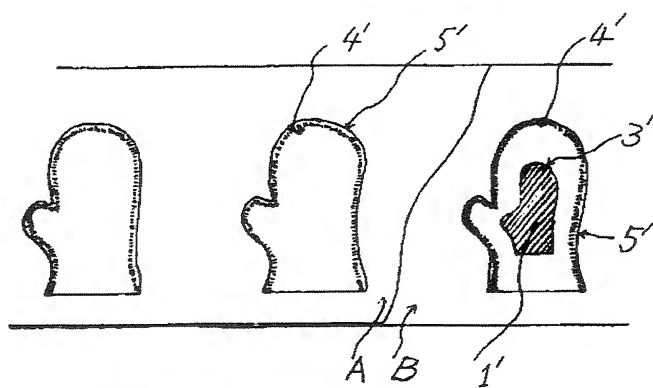
代表者 ヤマ クチ アキラ
山 内 昌



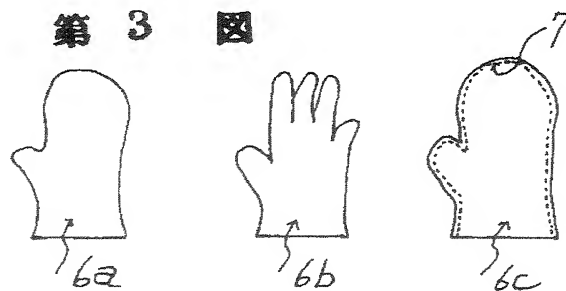
第 1 図



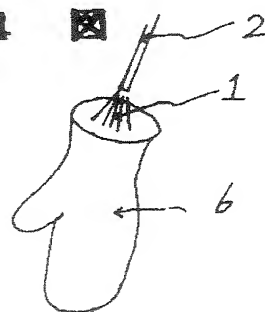
第 2 図



第 3 図



第 4 図



132427

出願人

ジェクス株式会社

前記以外の 考案者 の氏名

住所 大阪府大阪市東淀川区上新庄町1丁目35番地
氏名 ジェクス株式会社 開発研究所内
高 尾 嘉 文

住所

氏名

住所

氏名

以 上

54-132427